

---

第 349 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2016 年 7 月 8 日(金) 17 時 30 分～19 時 00 分

場 所: 実習館 2 階 総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 岩田 幸一 氏(日本大学歯学部生理学講座・教授)

タイトル: 口腔顔面領域に発症する異所性痛覚過敏の神経メカニズム

様々な原因で三叉神経が損傷を受けたり、口腔顔面領域に慢性的な炎症が引き起こされると、口腔顔面の疼痛だけでなく口腔が有する様々な感覚・運動機能が障害され、患者の QOL は著しく低下する。神経損傷や慢性炎症が原因で発症する口腔顔面領域の疼痛異常は損傷神経の支配領域や炎症領域を超えた広い部位に広がり、原因を特定することが困難な場合が多い。このような異所性の疼痛異常はしばしば誤った診断や治療の原因となると考えられる。適切な診断および治療を行うためには、神経損傷や慢性炎症によって引き起こされる疼痛異常の詳細な発症機構を解明する必要がある。

これまでに我々は様々なモデル動物を用いて疼痛異常の末梢および中枢神経機構について解明を進めてきた。この中で特に我々が注目してきたのはニューロン-グリア機能連関の関与である。三叉神経が損傷を受けると、三叉神経節内に存在する多くのサテライト細胞および延髄に存在するミクログリアとアストロサイトが活性化し、損傷神経支配部位や炎症部位を超えた広い領域に分布するニューロンの活動性が亢進し、異所性痛覚過敏が発症すると考えられる。

本講演では三叉神経損傷モデルおよび慢性炎症モデル動物でみられる異所性痛覚過敏に対するニューロン-グリア機能連関の関与について、我々の研究結果を紹介し、口腔顔面領域に発症する異所性痛覚過敏の神経機構について議論したい。

担当: 顎口腔機能制御学講座 北川 純一